

### 東日本大震災に学ぶ地域建設業の役割

環境会議所東北の会員の皆様におかれましてはご清祥のこととお喜び申し上げます。

今回は建設業という立場から東日本大震災の話をしたと思います。あの日から3年数カ月が過ぎ、やっと復旧段階が終わったところです。仙台周辺の海辺には防潮堤が出来上がり、今は復興公営住宅・すべり宅地被害復旧工事・河川の堤防嵩上げなど復興に向けた工事が始まっています。仙台市は5年計画、宮城県は10年計画での復興計画です。本年がまさに工事のピークであり人手不足・資機材不足・価格高騰の状態。なかなか思うように工事も進まない状況ではありますが、各社が今出来る精一杯の力を発揮して工事にあたっています。



ここで当時、あまり報道されていない話を一つご紹介いたします。震災発生当日の18時から若林区の道路啓開作業は地元の建設業者12社で開始されていました。停電で辺りは真っ暗の中、余震も続き津波が来るかもしれないという恐怖を感じながらの作業でした(啓開作業というのは自衛隊や消防、警察

NPO 法人環境会議所東北 理事  
株式会社深松組 専務取締役 深松 徹

が捜索する時に道路に瓦礫があり、車も人も入れないので、道路上の瓦礫を左右に寄せる作業です)。数多いご遺体を目にしながら、重機オペレーターや作業員は、泣きながら作業をずっと続けました。

なぜ若林区の建設業者は地震発生直後、わずか数時間でこのような道路啓開作業を連携を取りながら出来たのでしょうか？

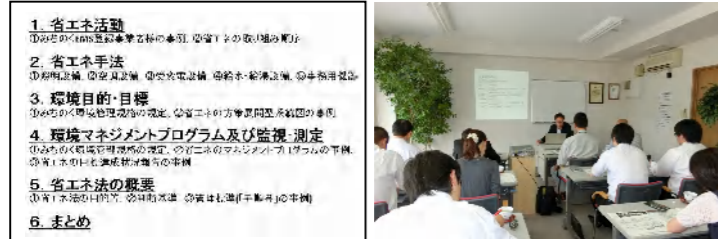
実は震災発生の前年、平成22年12月建設業界からの申し入れにより、若林区と建設業界による初めての合同防災訓練が行われていたのです。この訓練によって両者の意思疎通が図られ、災害時に連絡が途絶えても、どの業者が何をすべきか学んでいました。更に、平成23年3月3日にその訓練の反省会を若林区役所で開催していました。震災発生1週間前に準備は出来ていたのです。

我々地域建設業の役割とは、普段は地域の安全・安心を守る「町医者」であり、災害時には一刻を争う判断をしなければならない「救命救急医」であると認識し、これからも仕事に邁進します。

### みちのく EMS 説明会・セミナー情報

■会場：NPO 法人環境会議所東北

- 無料説明会 参加費無料  
(毎月第3火曜日 13:30~15:30)  
7/15、8/19、9/16、10/21、11/18、12/16  
システム導入にあたり、何から始めてどうすればいいのか？構築から認証登録までを分かり易く解説いたします。
  - 内部監査員養成研修 費用 ¥10,800/1人  
(毎月第3水曜日 13:00~17:00)  
7/16、8/20、9/17、10/22、11/19、12/17
  - 省エネセミナー 費用 ¥5,400/1人  
(毎月第3木曜日 13:30~16:00)  
7/17、8/21、9/18、10/23、11/20、12/18
- ※有料のセミナーの定員は12名(先着順)  
※お申込はホームページをご参照ください。  
URL: <http://www.kk-tohoku.or.jp/ems/>



省エネセミナー内容

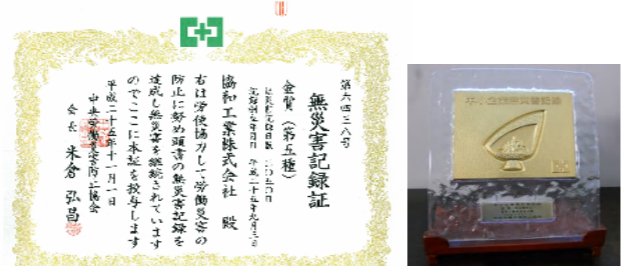
新入会員をご紹介します。(敬称略)2014.6月現在 会員数 65

- 株式会社小松写真印刷 <http://www.komatsu-corp.co.jp/>
- アコムレンタル機(株)仙台営業 <http://www.acom-rental.com/>
- ピービーエスコンサルティング(株) <http://www.pbsconsulting.co.jp>

### 中小企業無災害記録金賞(第五種)の受賞

協和工業株式会社  
(みちのく EMS 認証取得企業)

当社は、平成25年9月3日に無災害継続記録3050日を達成し、中央労働災害防止協会から金賞(第五種)を授与されました。これからは、IMS(品質、安全、環境)の改革活動を通じて、無災害を継続してまいります。



表彰状

記念の盾

### 編集後記

先人達は、津波災害から命を守るため波分神社や石碑等で次世代に伝えてくれました。どんなに技術が進歩しようと自然の力にはかないません。高さ14m前後、耐用年数も限りあるコンクリートの防潮堤は本当に命を守れるのでしょうか？何が正しいのか疑問です。山・里・海のつながりから地球の未来を考えることが必要ではないでしょうか？いつ考えるの？それは今でしょ！来たる11月22日(土曜日)夢メッセ西館において「いのちを支える自然の力！さかなクンと学ぼう」を開催します。大人も子供も入場無料です是非ご来場ください。ともに学びながら考えましょう。

発行・編集 NPO 法人 環境会議所東北

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6

TEL. 022-218-0761 FAX. 022-375-7797

Email [kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp](mailto:kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp)

URL <http://www.kk-tohoku.or.jp>



2014.6  
No. 29

### 平成 26 年度環境会議所東北の事業・活動について

代表理事 猪股 宏(東北大学大学院工学研究科・教授)

NPO 法人環境会議所東北の平成26年総会は5月10日に開催し、無事終了いたしました。今回は記念講演の代わりに会員団体の事業紹介コーナーを設け、各団体に熱く語っていただきました。それぞれの事業内容や取り組みが理解でき、良い交流となりました。

今年の活動で大きな変革点は「エコプロダクツ東北」を開催しないことです。これまで10余年「東北環境展」を原点とした本NPOでの大きな事業でしたが、昨今様々な環境展示会が開催されるようになり、徐々に出展小間数が減少してきました。また情報収集方法がインターネットなどの普及により、多様化してきたことが今回の決定要因です。ただし環境製品や環境サービスなどの正しい情報提供を行うことの重要性並びに本会の立場が変わることはありません。代替として環境教育に重点を置き、「いのちを支える自然の力！さかなクンと学ぼう」を開催いたします。「さかなクン」による講演会、「見て、聞いて、触れて、食べる！」をテーマとした体験学習を展開し、子どもはもちろん、一般の方にも環境について楽しく学ぶ機会としたいと考えています。

当会のこれからの活動の中軸は「みちのくEMS」になります。環境マネジメントに関する認証事業ですが地域版ISOとして、宮城県・仙台市などの入札で優遇措置も設定されており、認定企業・取組み企業数が増加しております。全国的には「チャレンジ25」「エコファースト」さらに地元宮城県「みやぎe行動(eco do!)」仙台市「新・仙台市環境行動計画」など、環境活動方針・計画が多数提出されており、中小企業にも同様な流れが寄せられています。このような背景から、企業にもCSRの一環として環境方針・環境目的を設定し実践することが当たり前のこととして要求されています。「みちのくEMS」は正にそのような活動を支援・後押しするものです。また、単に「認証取得」を目的とすることなく、認証取得企業が社会的責任(CSR)を果たしつつ、企業活動つまり利潤追求や事業継続が可能となるコンサル・指導を目指していきたくて思っております。

私見ですが、企業あるいは個人が「環境に寄与することを小さいことでも実践している」ということが心の余裕となり自己賛美の一因として生活することができれば、文化的には非常に幸せなことであろうと考えます。今後とも皆様に対して御理解と御協力をお願いする次第です。



総会の様子



### 山・里・海のつながりから地球の未来を考える 「いのちを支える自然の力！さかなクンと学ぼう」 ～見て・聞いて・触れて・食べる！楽しい一日～ 開催概要

- 日時：2014年11月22日(土)10:00~16:00
- 会場：夢メッセみやぎ西館展示場
- 主催：NPO 法人環境会議所東北
- 共催：仙台広域圏ESD・RCE運営委員会
- 協力：東北環境パートナーシップオフィス
- 内容：お魚ライフコーディネーター「さかなクン」による、沿岸部の「浜」の再生力に関する講演及び「見て、聞いて、触れて、食べる！」体験型学習コーナーを用意。子ども達が五感をフルに使って楽しめる環境イベントです
- 入場料：無料
- 出展料：1小間(3m×3m)あたり 54,000円(税込み)
- ※申込締切 8月31日(日)
- 対象：小・中・高・大学生、一般(来場予測 1,500人)

### 第14回環境甲子園開催のお知らせ

今年度もNPO 法人環境会議所東北の会員の皆様のご協力の下、下記の通り、「第14回環境甲子園」を開催することとなりました。

- 応募資格
  - ・東北6県の高等学校生・高等専門学校生
  - ・個人・グループ、いずれの応募も可
- ※同一高校から複数グループの応募も可能です
- 賞及び入賞発表
  - ・最優秀賞(1点) 10万円
  - ・優秀賞(2点) 5万円
  - ・特別奨励賞(5点) 3万円
  - ・奨励賞(6点) 1万円
- スケジュール・申込方法
  - ・エントリー期間 2014年4月20日(日)~7月20日(日)
  - ・作品(成果品)応募期間 2014年6月20日(金)~8月31日(日)※当日消印有効
  - ・入賞発表 2014年10月上旬
  - ・表彰式 2014年11月22日(土)(予定)

コラム

メタン発酵と豆腐製造による  
原発被災農地の復興



日本大学大学院教授  
東北大学名誉教授 野池達也

東日本大震災の発生後、早くも3年3か月が経過しました。廃墟と化した被災地に立ちまわって、あまりの悲惨さにただ涙以外の何ものもありませんでした。この大地震・津波によりまして、原子力発電所が破壊され、放射性物質が環境に放出する深刻な事態が生じ、地元の皆様のお苦しみは測り知ることはできません。被災地の復興のために、何とかしてライフワークによってお役に立てていただきたく願ひ、NPO 再生可能エネルギー推進協会 (REPA) の一員として、被災された現地の農家の方々と福島県伊達市霊山町下小国地区の大沼豊氏の自宅に手造りのメタン発酵装置を設置し、放射性物質に汚染された農作物や家庭生ごみ等のバイオマスのメタン発酵実験を開始いたしました。放射性物質に汚染された果物、野菜生ごみ、刈草等の無価値とされた農作物から、メタン発酵によって、燃料として有用なバイオガスという有価物を生産でき、当地名産のあんぼ柿5個の投入により生産されるバイオガスによってお米一升が美味しく炊飯でき、小型発電機によって200W電燈が明々と灯ることを体得された大沼豊氏の喜びは甚大でありました。メタン発酵実験の成功によってかづけられ、下小国地区に農業を復興したい気運が高まり、農家の同志の方々、REPAの有志の協働で、復興庁「新しい東北」先導事業による新たな挑戦に立ちあがるに至りました。本年は、農地を除草して大豆の栽培に着手いたします。太子食品工業株式会社常務取締役小谷津洋康氏も、40年に亘る豆腐製造のライフワークによって、当地のブランド豆腐製造のために、私達 REPA の同志に加わってくださり力強い援軍が与えられました。

●グリーン購入事業所見学会の開催

ライフサイクルアセスメントの「廃棄」に視点を置き、産業廃棄物の中間処理や再利用の一貫処理に努める事業所と、エネルギーを多量に消費する下水処理から藻類を用いて、新たなエネルギーを創り出す技術を確認し、研究開発を進めている浄化センターの見学会を開催いたします。

日時：平成26年7月8日(火)  
集合・解散：仙台駅前東口観光バスターミナル  
主催：みやぎグリーン購入ネットワーク  
共催：宮城県  
見学先：①仙台環境開発株式会社 中間処理場  
②昼食 レストランキンピアポート仙台  
③キンピール仙台工場見学・試飲  
④仙台市南蒲生浄化センター



会員  
企業  
紹介

笹氣出版印刷株式会社

代表取締役 笹氣 幸緒 氏

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号  
TEL：022-288-5555 FAX：022-288-5551  
従業員数/58名 創立/1921年 資本金/3,600万円  
URL：http://www.sasappa.co.jp/



「お客様と共に」

当社では、お客様の「伝えたい」をより効果的に「伝える」ためのパートナーとして研鑽を重ねてまいりました。活版印刷による美しい本づくりで培った技術と精神は、革新を続ける電子技術による製作工程に引き継がれ、紙・電子媒体を駆使した多種多様なサービスを提案しております。それら商品群の中からお客様にとって最適な

メディア選択と表現方法を提供しております。

一方、製造業としての社会的責任に着目し、2004年5月にISO14001(環境マネジメントシステム規格)を取得。2006年7月に、FSC(森林管理協議会)のCOC認証資格を県内印刷会社に先駆けて取得しました。森は私たちに「水」「空気」「土」「生物」「いやし」等を与えてくれます。そのように大切な世界中の森が、違法伐採等でどんどん減っています。森を守るためにも、適切に管理された森から生まれたFSC認証紙の使用を提案するとともに森林認証制度の広がりをお支えし、参加しております。

また、2006年9月にグリーンプリンティング(GP)を取得。グリーンプリンティングは、日本印刷産業連合会が印刷業界の環境自主基準「印刷サービスグリーン基準」を制定し、規準を達成した印刷工場、印刷製品などを認定し、環境経営に積極的な印刷関連企業を推奨、環境に配慮した印刷製品を広く普及することを目的に創設された制度です。

地域貢献の一環としては、2005年に施行・制定の「文字・活字文化振興法」「文字・活字文化の日」に関連し、長年「文字・活字」にこだわり、本づくりに努めてきた会社として、多くの市民の方々に「文字・活字」にふれ、関心を深めていただくためのイベント「文字・活字とのふれあいDay」を開催致しております。今年も、節目の10回目を迎え10月24日(金)・25日(土)に開催致します。また、「学術の世界と市民をつなぐ情報誌」をコンセプトとしたフリーペーパー「まなびのめ」を年4回発行(Web版は随時更新)し、地域の公共施設等に設置し配布しています。市民の方々の知的欲求をコーディネートする役割を努めております。

環境への取り組み、「文字・活字とのふれあいDay」開催、学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」発行等、私たちは企業活動を通じて地域の皆様に還元していきます。そして、2021年の100周年を見据え、これからもお役立ちを第一に心がけ、お客様と共にあゆむ企業として邁進してまいります。



責任ある森林管理のマーク



GREEN PRINTING JPFI F-B10004

GPマーク



まなびのめ

会員  
企業  
紹介

水ing(スイング)株式会社

東北支店支店長 風呂 光国 氏

〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡2-5-30SF1 仙台ビル  
TEL：022-290-8833 FAX：022-299-1633  
本社/東京都 従業員数/3,148名 創立/1977年  
資本金/55億円 URL：http://www.swing-w.com

水ingは、1912年に荏原製作所の前身である「みのくち式機械事務所」の設立に端を発し、1931年(昭和6年)に国産初の水道用急速ろ過装置を納入して以来、今日までの80余年、日本の水インフラのパイオニアとして、たゆむことなく技術・製品の開発とサービスの提供につとめ、人々の暮らしや環境を支え続けてきました。2010年に荏原製作所に加え、三菱商事、日揮が資本参加、2011年には社名を「水ing株式会社」に変更、『『水』を通じて社会に貢献し続ける『ing』会社でありたい』との企業理念を社名に込めました。

水ingの事業は社会インフラの基盤となる上下水道、し尿、ごみ浸出水処理施設その他、食品・清涼飲料製造用水・排水、自動車製造用水・排水など各種産業や動物園、水族館の水処理まで、あらゆる水処理施設の設計・建設、施設の運営・維持管理と広範囲に及びます。また、海外にも積極的に事業展開し、50カ国、550カ所に及ぶ水処理設備の納入実績を有しています。

茨城県南部、土浦市に建設された「日立セメント株式会社殿神立資源リサイクルセンター バイオプラント」は水ingのメタン発酵技術が活用されたバイオマスプラントです。平成22年にバイオマスタウン構想を策定した土浦市において、産官学・市民からなる検討委員会として纏められたバイオマス活用スキームにより、その中核施設として位置づけられる事となりました。

一方、今日の日本では高度成長期に整備された水インフラ基盤の老朽化は深刻な社会問題となっており、さらに人口減少や技術継承問題等、水を取り巻く環境が大きく変化中、これからは更新・維持管理、更にはマネジメントの時代、長期事業運営の時代へと移り変わっています。これらの直面する課題を解決し、水インフラを安心・安全で持続的に成長させていくには、公の経験・知見と、民間企業の経営ノウハウと技術力の融合が重要であり、民間企業の果たす役割と責任は今後益々大きくなっていくと予想されます。

水ingは長期事業運営の時代の先駆者として、様々な取り組みを行っており、中でも広島県と共同出資し、設立した、「水みらい広島」は日本初の民間企業が主体となる公民連携(PPP)水道事業運営企業体として注目を集めています。広島県の水道事業運営の実績と水ingの豊富な経験と民間企業としての特性を最大限に活かし、安心で良質な水の安定供給を基本に、施設の更新、運営の効率化を目指しています。また、地元広島県に水道技術者を育成し、継承していく事も重要な役割であると考え、様々な取り組みを行っています。

この様に水ingは、各地域の固有の風土を理解し、長年培ってきた経験・技術を活かしつつ、地域社会の持つ様々な習慣や特性を踏まえて課題解決に取り組んでいます。これからも、地域の水環境のニーズに応える提案を、地元自治体・地元企業の皆様と共に生み出していきたいと考えています。



日立セメント株式会社  
神立資源リサイクルセンター  
バイオプラント



会員  
企業  
紹介

協業組合名取環境事業公社

代表理事 伊藤 勉 氏

〒981-1225 名取市飯野坂字南沖61-1  
TEL：022-383-3533 FAX：022-383-6233  
従業員数/65名 創立/1998年 資本金：1億9,388円  
URL：http://www.natorikankyo.com/index.html

協業組合名取環境事業公社は、平成10年4月に民間4社による出資にて設立しました。業務内容は、行政からの業務委託(家庭ゴミ収集運搬・リサイクル資源の選別・焼却炉運搬業務など)と、事業者様より排出される廃棄物の収集運搬になります。

平成18年には、地域の子供たちを守りたいということから、「困った時は声をかけてね。」と黄色いステッカーを収集車に貼りました。同年には、市内11の小学校にリサイクル・環境に関心を持ってもらうために環境をテーマに絵を描いてもらい、選ばれた作品を1年間収集車に飾っています。今年は何んな絵が届くか楽しみです。さらに、収集車には、AED(自動体外式除細動器)を搭載し業務中救命処置が必要な人に駆けつけるため、定期的な講習も受けています。(なお、AEDは、地元の各種団体に無償で貸し出しもしております。)

リサイクル資源の選別は、17分別され収集されてくる資源物からさらに異物を分別し、ゴミの減量、資源の再生増進に貢献しています。

焼却炉運搬業務では、24時間、365日、焼却中のゴミからの有害物質の抑制などに注意を払いながら安全、適正な運転をしています。

平成22年度からは、環境をテーマに再生と循環を推進するため、リサイクル施設「E&Rプラザ」を建設しました。ペットボトルのフレック化、空き缶の圧縮、廃プラスチックの減容、機密書類の抹消を行っております。中でも力を入れているペットボトルのフレック化については、ゴミ処理からの観点を変え、製造の位置付けとしてペレットの製造を行っています。ペットボトルは今、繊維の材料(衣料・自動車関連)、シートの材料(卵パック・食品トレイ)、成形品(ゴミ袋・建築用材料等)様々な製品になっています。ペレットにすることで、特殊なフィラメント用原材料、特殊な環境配慮シート原材料等に幅広く使用されています。

海外企業または、日本企業では製造出来ない高品質のペレットを製造することにより、再生と循環を推進していきます。

弊社は平成10年の創業当時、廃棄物の収集運搬業務をメインにスタートしました。その後廃棄物処理の環境は日本経済の成長と共に変遷を遂げてまいりました。

そこで弊社は、廃棄物・環境に身に置く企業の使命として、廃棄物収集運搬をさらに適正処理まで進めることが求められていると確信いたしました。

ゴミの減量を図り、限りある資源の有効利用を目的に、環境に配慮した資源循環型社会を目指し、地域社会に根差した企業として社会の要求・顧客のニーズに応え、更なる飛躍をして行く所存であります。

